物流Weekly ウィークリー 10月15日号 A3版 総合 （第三種郵便物認可）

座談会

日生流通運輸倉庫の女性運行管理者5人

女性ならではの心遣い…

日生流通運輸倉庫（黒崎昭男社長、埼玉県上尾市）は3年連続で埼玉県が主催する「埼玉版ウーマノミクスプロジェクト」の「埼玉版女性活躍ハンドブック　ノウハウ集・企業事例集」に紹介され、女性の雇用に注力しているが、それでも女性ドライバーを採用時の課題は多い。同社が選んだ解決方法はまず、管理業務への参画だ。女性ドライバーを雇用するためには女性の管理職が必要だと、特にドライバーに身近な存在である運行管理者の資格取得を女性事務職員が取得できるよう支援してきた。現在、同社には女性運行管理者は8人在籍している。今回、事務職兼選任運行管理者として、桶川営業所・福山晴美氏、行田営業所・橋本佳香氏、野田営業所・近藤由紀氏、さいたま営業所・森本みゆき氏、そしてドライバー兼選任運行管理者の所沢営業所・広瀬麻美氏の5人に、運行管理者の立場で働く話を聞いた。（荒沼　澪）

行田営業所
橋本佳香氏

彼女たちが運行管理者の資格を取得するきっかけは、もともと他社で資格を取得したという森本氏以外、全員が会社からの勧めという。同社では女性の運行管理者試験の合格率が高く、「私の前に試験を受けている人たちが全員一回で合格しているので、プレッシャーでした」という声もあった。

野田営業所
近藤由紀氏

運行管理者として、やはり事故につながるドライバーの体調や睡眠時間の問題に気を遣うと話す。女性のほうが些細な変化に気が付く場面が多いといわれるが、体調や睡眠時間というのはデリケートな個人の問題である。気が付くからこそ、伝え方にも気を遣っているという印象を強く受けた。

また、運行管理者としてドライバーに接する時、男女で差があるかという質問には、差を感じないという答えがほとんどだった。しかし、女性のドライバーとは世間話やプライベートの話題を取り上げるなど、同性同士の会話も弾むようだ。

深刻な問題として、渋滞や雪の日を見越して携帯トイレを車に積むドライバーをの申請を信じるしかないよね、管理者が心配する話も聞かれた。（以下、座談会注意しても寝不足や体調不良を伝えてもの様子／敬称略）

運行管理者とか責任ある仕事についてどう思いますか？

橋本「声掛けの内容や、安全運行に対しての意識が大変だと感じる。点呼の声掛けで伝えられることは限られていて、後はドライバーの意識の中で安全運行してもらうしかない。体調も道路状況も違うので、それにあった声掛けをして、いかに安全運転をしてもらうかという責任感はある」

広瀬「特に体調の判断は難しいところだよね」

森本「本人が大丈夫って言っても具合が悪そうな場合もあって。また、具合が悪くて帰っても、代わりのドライバーの問題もある」

広瀬「残りの配送のこともあるので、配車係と相談しなくては難しい」

近藤「ドライバー仕事をする上でやりがいを感じることは？

福山「夜中に出てきて昼頃帰る人もいるし、全員が同じ時間に帰ってくるわけではないが、無事に仕事を終えて帰られたなという姿を見た時ですね」

広瀬「自分の場合は出勤点呼をとることが多くて。次の日に出勤した時に車両トラブルや誤送、体調不良などがなく終わったことを確認した時に良かったなと思う。送り出してからは翌日にならなければわからないので。何事もなく終われば『ほっとする』」

ドライバーを指導したり、何かを伝えたりする上で気を付けている点は？

広瀬「なるべく相手の話を聞くようにしている。本当に10人いれば10人違う。話してくれる人もいれば、全く話さない人も」

橋本「こちらはだいたい聞く側」

所沢営業所
広瀬麻美氏

広瀬「聞く方が多い。ドライバーに不満もあったりするし」

コミュニケーションを積極的に取ろうとしている？

広瀬「人による。本当にブスっとして入ってきて、ブスッとしたまま出て行ってしまうから。ただ、伝えないといけないことがある時は呼び止めて『気をつけてね』と言って送りだす」

近藤「私が所属する営業所には、女性ドライバーが2人いる。長らく女性がいなかったので、なるべく辞めてほしくないですね」

広瀬「うちは1人いる。男女の差は気にならないけど、できるだけ力になってあげたいという気持ちはある」

さいたま営業所
森本みゆき氏

物流業界に入ってくる女性に何か伝えるとしたら？

広瀬「何でもありの昔とは、全く違う環境になっているので、働きやすくはなっていると思う。体力的なのは根性だね。すごく働く人とかが同じ職場にいると、負けたくないと思う」

橋本「女性でも、そういう人の方が向いているかも。好きや興味で入ってきても、実際は苦労とか大変なこともいっぱいあるから」

広瀬「ただ、労働時間はもう少し短くなってほしい」

橋本「課題もまだまだ多いですよね。特に女性はトイレの問題がありますよね」

森本「トイレの問題は国全体で対応してほしいという話になっちゃうかな。以前、大雪の日になかなか帰って来られなかった女性ドライバーに『トイレは大丈夫だった？』と聞いたら、『飲み物をできるだけ飲まないようにした。進まないし、止められないから』と言っていた」

女性ドライバーを増やすには、どうしたらいいと思いますか？

広瀬「（ドライバーの）仕事自体は面白いと思う。出発してしまえば、一人で気持ちも楽だし。女性ドライバー求人の道も、昔よりは開かれているんじゃないかな」

森本「それに今は新人教育も昔よりしっかりしてるでしょ？」

橋本「そこは高評価かもしれません。うちでは運転の仕方から座学まで教育していますから」

広瀬「うん『教育してもらえて有難いですよ』って言われる」

桶川営業所
福山晴美氏

物流ウィークリー「10月15日号」に掲載されました。

掲載サイズは、A3版で誌面１／２でした。